

カリキュラム区分		2カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門科目	434	3年	後期	臨床検査学科	必修	輸血移植検査学実習 Practice in Blood Transfusion and Transplantation Medi	45	1
担当教員								
山田 武司	田野 ゆづき	土居 靖和*						
関連するDPキーワード（看護学科）								
	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	○ ② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	○ ④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	○ ⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
講義で学んだ知識を生かし、輸血移植検査の基本となる手技を学ぶ。血液型検査法、不規則抗体検査法、HLA型検査法、リンパ球培養法などの基礎技術を中心に、実技を習得する。								
到達目標（授業目標）								
臨床検査の中で、臨床的にも社会的にも特に重要な検査である輸血・移植検査を行うための手技を習得する。								
① ABO式血液型判定法が確実に実施できる。								
② Rh式血液型判定法が確実に実施できる。								
③ 不規則抗体スクリーニング法が確実に実施できる。								
④ 交差適合試験法が確実に実施できる。								
⑤ 適合血が正しく確実に選定できる。								
授業計画（項目・内容と方法・担当者）								

授業概要	<p>1～2回：ガイダンス及び基本操作・輸血検査の基本技術、血球洗浄操作と血球浮遊液の調整・山田武司/田野ゆづき</p> <p>3～4回：ABO・Rh血液型検査（1）・採血、赤血球血液型検査（ABO, RhD 血液型検査）、スライド法・山田武司/田野ゆづき</p> <p>5～6回：ABO・Rh血液型検査（2）・試験管法、D陰性-weakD確認試験・山田武司/田野ゆづき</p> <p>7～8回：交差適合試験・主試験・副試験、不規則抗体検査・山田武司/田野ゆづき</p> <p>9～10回：直接抗グロブリン試験・免疫抗体（IgG抗体）感作の有無の検討・山田武司/田野ゆづき</p> <p>11～13回：抗体解離試験・熱解離法と酸解離法・山田武司/田野ゆづき</p> <p>14～16回：その他の輸血関連検査・ABO転移酵素活性の測定（抗A/抗B血清の力価測定）、分泌型・非分泌型試験（抗体の調節、唾液を用いた血液型判定）・山田武司/田野ゆづき</p> <p>17～18回：HLA タイピング検査（1）・フローサイトメトリー法・山田武司/田野ゆづき</p> <p>19～22回：HLA タイピング検査（2）・DNA タイピング法・山田武司/田野ゆづき</p> <p>23回：検査結果の解析と評価・検査室における輸血検査の実際、検査結果の解析と評価方法について・山田武司/田野ゆづき/土居靖和</p>
------	--

成績評価方法及び基準
------------

レポート（80点）、筆記試験（20点）により評価する。トータル60点以上を合格とする。

教科書	永尾暢夫・編「輸血・移植検査学実習書」（医歯薬出版）、配布プリント
-----	-----------------------------------

参考図書等	JAMT「輸血・移植検査 技術教本」（丸善出版）、JAMT「臨床免疫検査 技術教本」（丸善出版）、窪田哲朗・編「免疫検査
-------	--

授業時間外の学習について（授業準備のための指示）
--------------------------

実習に入る前に、項目ごとに作業内容について必ず予習する。実習レポートは課題も多く、授業時間内に終わらないため授業時間外での作業を必要とする。

関連科目
------

前科目	433	輸血移植検査学	431	臨床免疫学	430	免疫学			
後科目									

実務家教員
-------

臨床検査技師（医療機関）	田野 ゆづき	土居 靖和*			

備考	実習項目の変更および順番が変更になることがある。
----	--------------------------